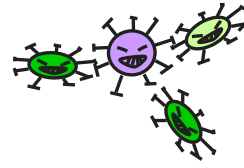
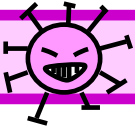


# 感染症に気をつけよう!

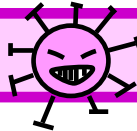
2019年【6月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況

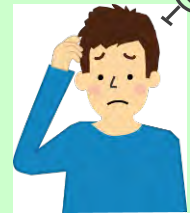
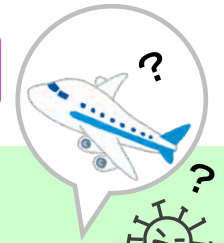


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
麻しん**	多発	増加	麻しん患者との接触が明らかでないケースの報告が、続いています。【'18.5号】
風しん**	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が、まだ継続中です。【'19.4号】【予防接種】

## 今、気をつけたい感染症 麻しん(はしか)



- これまでは海外で感染した例が報告されていましたが、4月以降、海外渡航歴のない感染経路不明の患者が増加しています。
- 知らないうちに身近な所へ麻しんウイルスが持ち込まれている可能性があります!!



- 麻しんの感染力は非常に強く、免疫がない人が感染すると、ほぼ100%発症してしまいます。
- 熱や咳、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると38℃以上の高熱と、全身の赤い発疹が現れます。
- 肺炎や脳炎などの合併症を起こした場合、時に命に関わることもあります!!

- 予防には2回の予防接種が必要です。
- 麻しん風しん混合(MR)ワクチンを確実に受けましょう。
- 麻しんが疑われる場合は、事前に医療機関へ連絡してから指示に従って早めに受診してください!!



参考ホームページ \*：国立感染症研究所 \*\*：厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】

